



ひょうたん山



謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。

本年も宜しく願い申し上げます。

平成26年(2014年)、新しい年の始まりです。昨年はいろいろありがとうございました。長い間小川クリニックを利用いただいている皆様に御迷惑をおかけしましたが、昨年3月末に大阪小児科医会会長職を終え、また6月8日・9日の2日間開催しました日本小児科医会総会フォーラムを盛会裏に終え、ほぼすべての公職から退きました。以後、日常のライフスタイルをほぼ逆転しましたので、体をならすのに少し時を必要としましたが、7月から火・木曜日の午後診を再開、10月から月・水・金の夜診を再開し、平成3年開院当時の診療体制にもどしました。あわせて小川クリニック外来小児科センターと改名して小児科単科クリニックへの移行を始めました。ITにはまったく無能の私ですが、スタッフの協力によりホームページも開設しました。新しい年を迎えて、小川クリニック外来小児科センターの今年一年の活動がだんだんイメージされてきました。もういい年齢ですが、新しい気持ちで頑張ります。宜しく願い致します。

小川クリニック外来小児科センターのホームページ・URLを変更しました。

より利用しやすくなりました。診察時間などまずホームページを見て下さい。

<http://ogawa-clinic.or.jp/>

検索キーワードは“外来小児科センター”です。

★★★受付時間★★★

	月	火	水	木	金	土	日
午前診 9:00 ↓ 12:00	☺	☺	☺	☺	☺	☺	☺
午後診 14:00 ↓ 16:30	☺	☺	☺	☺	☺	☺	☺
夜診 17:00 ↓ 19:30	☺	-	☺	-	☺	-	-

予約接種の受付を拡大致しました。

月曜日から金曜日の午後診療時間帯を原則としますが、他の診療時間でも接種します。通園・通学で午後診療時間帯の接種が困難な場合に御相談下さい。

予約制ですので、まず受付で予約して下さい。

緊急情報です！ MR（麻しん・風しん混合ワクチン）2期ワクチン接種

妊娠中のママが風疹に罹ると赤ちゃんが先天性風疹症候群になるおそれがあることは皆さん御存知です。

ここ数年の風しんの流行で先天性風疹症候群の赤ちゃんが出生しています（残念ながら報道されていませんが・・・）。昨年9月の東大阪市におけるMR2期ワクチンの接種率は30%程度で、全国最低レベルと思います。小川クリニック外来小児科センターではMR2期ワクチン接種の受付時間を拡げました。午前診・夜診でも接種します。4月の小学校入学までに必ず接種して下さい。まず、予約をお願いします。

インフルエンザが流行るかわりと言ってはなんですが、嘔吐・下痢をおもな症状とするカゼ(感染性胃腸炎)が流行しています。なかには子どもさんが重篤な症状に至るウィルス性胃腸炎もあります。この時期の胃腸症状を示すカゼについて情報提供します。(大阪小児科医会 新子育て通信より)

～インフルエンザについて～

インフルエンザの病原体はウィルスです。冬の風邪の仲間ですが、他のかぜより症状が激しい事、伝染力(感染力)が強いことでとくに注意が必要です。インフルエンザに感染すると1～2日の潜伏期間のあと、急に発熱・頭痛・筋肉痛・関節痛ではじまります。1～2日おくれて咳や喉の痛み・鼻水などの症状がでてきます。小さい子どもの場合は下痢・嘔吐の胃腸症状からはじまったり、熱でひきつけをおこすこともあります。伝染力が強いので保育園、幼稚園、学校は必ず休ませます。インフルエンザを発症してから5日間、または解熱後2日・幼稚園は3日休ませることになりました。体力や免疫力が未熟な子どもでは、肺炎・中耳炎、まれに脳炎や脳症を引きおこすこともあり注意が必要です。

インフルエンザは迅速診断キットで数分間で診断できます。また最近ではインフルエンザに有効な薬がいろいろ出てきました。内服薬(タミフル)、吸入薬(リレンザ・イナビル)、点滴注射薬(ラピアクタ)などです。年齢や症状によって使い分けています。インフルエンザの予防にはインフルエンザワクチンの接種が有効です。でも接種を受けてもかかることがあります、重症化を防いでいます。有効な薬がなかった10年程前に比べると、インフルエンザの子どもさんを診る小児科医は本当に助かっています。小川クリニックでも10月・11月の間に多勢の方がワクチン接種を受けてくれました。でも流行が始まってからの予防は手洗い・マスク・うがい、そして人ごみを避けることが最も大切です。

～感染性胃腸炎～

いわゆるカゼの中でも、吐き気、腹痛、下痢、発熱などが主な症状であるとき感染性胃腸炎と診断します。感染性胃腸炎の原因の多くはウィルスによるものです。一部は細菌であり、またごく一部が真菌(カビ)、原虫、寄生虫などによるものです。ウィルスのうち最も注意を要するのが、ノロウィルスとロタウィルスです。ロタウィルスはノロウィルスよりも症状が重いことが多いので、乳幼児にとっていちばん注意すべきウィルスです。高熱・頻回の下痢・嘔吐などで脱水症状を起こすことがあります。けいれん、意識障害などの脳症状や、強い脱水のために腎障害を起こしたりすることもあります。こうなると後遺症の心配をしなければならず、乳幼児にとっては大敵のウィルスです。以前は冬に流行りましたが、最近では春にもみられます。“白い下痢(白痢)”という病名で随分有名になりました。血便が出てびっくりすることもあります。伝染力がかなり強いので、小さい子どもだけでなくご両親も要注意です。症状がある程度治まって食欲が回復したら保育所・幼稚園の登園は可能ですが、かかりつけ医との相談が必要です。子どもさん、とくに赤ちゃんにとっては厄介なウィルスですが、最近ワクチンが開発されました。高価ですがおすすめのワクチンです。クリニックでも接種しています。ホームページをご覧ください。6か月以内の乳児が対象です。

～ノロウィルス～

感染性胃腸炎の原因で注意すべきノロウィルスについてまとめました。このウィルスは昭和43年(1968年)、米国のオハイオ州ノーウォークという町で発生した急性胃腸炎の患者の糞便から検出され、ノーウォークウィルスと呼ばれました。その後、このウィルスには2種類あり、ノロウィルスとサポウィルスと呼ばれるようになりました。

ノロウィルスの感染経路はほとんどが経口感染で、汚染された貝類(カキ、アサリ、シジミ、ハマグリ等)を生あるいは十分加熱しないで食べた場合、食品取扱者を介して汚染した食品を食べた場合、患者の糞便や吐物から二次感染した場合などです。ノロウィルス感染症は一年を通じて発生は見られますが、1～2月が発生のピークになる傾向があります。感染から発症までの時間は24～48時間で、主な症状は吐き気・嘔吐・下痢・腹痛であり、発熱は軽度です。通常、これらの症状が1～2日続いた後で治癒し、後遺症はありません。このウィルスに効果のある抗ウィルス剤はありませんので、体力の弱い乳幼児・高齢者は水分と栄養の補給を十分に行い、体力が消耗しないようにしましょう。ノロウィルスによる胃腸炎が発生した場合、感染力を失わせるには次亜塩素酸ナトリウム(商品名ハイターなど)が有効です。ノロウィルスは、乾燥すると空中に漂い、口に入って感染することがあります。吐物や下痢便は速やかに適切に処理するとともに、手洗いを十分にすることが大切です。保健所や幼稚園などの集団生活の場ではとくに大切なことです。